

「家がいいね」 第239号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2024. 4. 2



宮川堤の桜満開はまだ遠いようなので、市中を探索しました。小俣の西光寺の桜は見事な樹勢でした。植木等さんの、母の実家として有名です。毛虫が葉に付く対策で切り倒される桜の話や、命は共にあるはず。

お彼岸に、村松のお寺で話をしました・・・

法会後に、普通は仏門の講師がすべき時間を頂戴しました。実は私は岐阜県上市の寺の外孫ですが、お経を唱えるのは今回フル体験しました。住職だった外祖父は、102歳の天寿を全うしました。父は52歳で上咽頭がんでの死去でした。74歳になったばかりの私の人生、この先の期間に分らないまま、在宅医生活です。講話の題は「老いを生きる」でした。誰も、頂いた身体を返すべき時期が来る（つまり死が訪れる）のですが、高齢一人暮らし「心も体もさびない生き方」の先輩（石井哲代さん）の本から紹介しました。また地元で20年前に、肝臓がんで23日間の在宅生活をされた方の折々の言葉を追想しました。「日々をもっと生きたい」と言えるのは「病院ではなく、家ですなわ」としみじみと語られました。あの世（彼岸）と、この世（此岸）の間は遠い。気持ちに通じる「その世」は在るけど刹那です。

社会人としての旅立ち

初々しい、その方の車列に、外宮の前で会いました。藤里から往診の帰り道、たまたま停車させられて、擦れ違いました。白い姿が開けた窓越しに写りました。4月から日赤の社員として働く姿も、素敵でしょうね。



4月からの訪問診療

大久保医師と遠藤が、二人で協働し訪問診療と往診を続けます。現在、ほぼ百名の在宅患者がおられ、毎月10名開業医から数名を紹介されます。お名前・住所・ご家族の実際と、ご病気の経緯を、私たちの頭に確実に入れ、ご縁が始まります。前病院と協力も続けつつ、家での生活が最優先になるよう努めます。



お荷物が届いたようですが（笑）

生き物は、自然に居心地のいい所を選びます。箱入り娘も猫と同様。安全な間隔も在るようですね。かくして自己肯定感とは、自然に育まれるのだからと、写真を見て思っています。



休診日の確認です

4月21日（土）の外来は10時まで。5月の連休中は、暦通りの休日体制です。4月28日（日）29日（月）休診。4月30日（火）5月1日（水）開院。5月2日（木）5日（月）休診。この期間中も、在宅患者さんには対応いたします。

後半5日間の長期の休み期間を乗り切るための事前の在宅調整のご相談をよろしく願います。



いせ在宅医療クリニック
自宅での人生を 最期まで支援します
〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可